

体内時計制御する遺伝子

太った人、働き異常

で化
量常
幅常
大正

肥満の人は、体内時計を制御している時計遺伝子の働きに異常があるとの研究結果を、日本大医学部などの研究グループが12日までにまとめた。

大幅に減量すると正常化することも確認。メタボリック症候群や糖尿病、肥満症などの治療に結び付く成果だとしている。

同大の上野高浩准教授らは、代表的な時計遺伝子「ピリオド1」に注目。体重(キログラム)を身長(メー

トル)の2乗で割った体格指数(BMI)が25以上の肥満男性12人(平均体重約91キログラム)と、25未満の肥満でない男性15人(同約64キログラム)を比較した。

午前9時〜午後9時までの遺伝子の働きを調べると、肥満でない男性は朝が活発だったが、肥満の人はあまり変動がなかった。BMI30(体重約82キログラム)から24(約63キログラム)に減量した30代男性は、遺伝子の働きが肥満パタ

ーンから肥満でないパターンに変わったという。

グループは「肥満が原因で遺伝子の働き方がおかしくなった」と判断。

「この遺伝子異常によって内臓脂肪の蓄積が促進され、脂質や糖質の調節もうまくできなくなるのではないか」とみて、遺伝子の働きを正常にする物質を研究している。